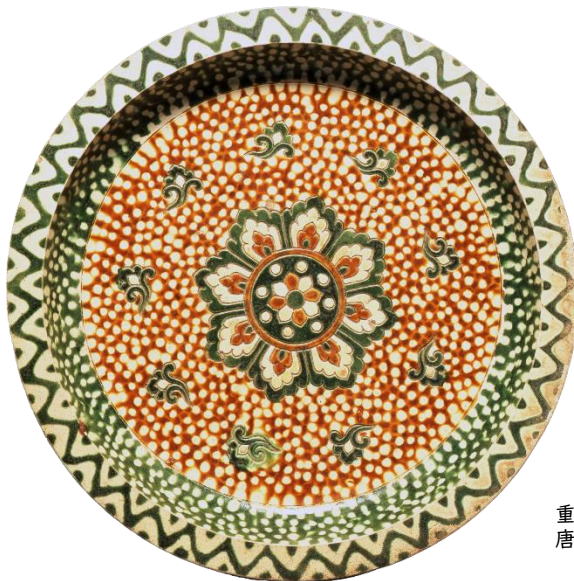


令和5年度早春展

中国陶磁の色彩 ―2000年のいろどり―

永青文庫

重要文化財 「三彩宝相華文三足盤」
唐時代（7～8世紀）

色から紐解く中国陶磁の2000年

永青文庫には、漢時代から清時代までの中国陶磁100点以上が所蔵されています。コレクションは、当館の設立者・細川護立（1883～1970）による蒐集品と大名細川家の伝来品からなり、所蔵品を通しておよそ2000年にわたる中国陶磁の歴史をたどることができるのが特徴です。このうち護立のコレクションは、日本において、鑑賞に主眼を置いた「鑑賞陶器」として中国陶磁の需要が高まるなか集められたものです。その価値をいち早く見出した護立は、「鑑賞陶器」蒐集の草分けの一人と位置付けられています。そして護立のようなコレクターばかりでなく、画家や工芸家たちもまた中国陶磁に魅せられ、自らの作品に取り込んでいきました。

本展では、主に護立の蒐集品より重要文化財3点を含む優品を展示し、唐三彩、白磁、青磁、青花、五彩など、色をテーマに中国陶磁を紐解きます。あわせて、近代の洋画家・梅原龍三郎（1888～1986）や、河井寛次郎（1890～1966）、宇野宗甕（1888～1973）といった陶芸家が中国陶磁を研究、題材にした作品を紹介します。紀元前から近代まで、色とりどりの多彩なコレクションをご堪能ください。

■ 開催概要

展覧会名：令和5年度早春展

中国陶磁の色彩 ―2000年のいろどり―

会 期：2024年1月13日（土）～4月14日（日）

※状況により、臨時に休館や開館時間の短縮を行う場合がございます。

※ご来館にあたって事前予約は必要ありませんが、混雑時はお待ちいただく場合がございます。

※当館の感染症予防対策については、ホームページをご覧ください。

会 場：永青文庫

開館時間：10：00～16：30（入館は16：00まで）

休 館 日：毎週月曜日（ただし2/12は開館し、2/13は休館）

入 館 料：一般1000円、シニア（70歳以上）800円、大学・高校生500円

※中学生以下、障害者手帳をご提示の方及びその介助者（1名）は無料。

主 催：永青文庫

特 別 協 力：ホテル椿山荘東京

展示構成

● 灰色の土器 —灰陶—^{かいとう}

中国では、土器・陶器をあわせて「陶」と呼びます。中国陶磁の歴史は新石器時代の土器に始まり、赤や黄味を帯びた紅陶^{こうとう}、顔料で文様を施した彩陶^{さいとう}から、灰陶、黒陶、白陶へと発展していきました。

とりわけ灰陶は、酸素の少ない還元焰^{かんげんえん}で焼き締められ堅牢であったため、明器^{めいき}（墳墓などにおさめる副葬品）や日常生活で用いる器として、長く生産され続けました。



重要美術品 「灰陶加彩馬」
北朝時代（6世紀）

● 多色のやきもの I —唐三彩—^{とうさんさい}

三彩とは、複数の鉛釉^{えんゆう}（鉛を主成分とする釉薬）をかけ分けた陶器のことをいいます。その技法は唐時代に確立し、隆盛を極めました。緑、褐色、白、藍に彩られた唐三彩は、器類のほか、人物・動物・家屋などをかたどったものがあり、ほとんどが明器^{めいき}として用いられました。

本展では、重要文化財2点のほか、永青文庫が所蔵する唐三彩を一挙に展示します。



重要文化財 「三彩花卉文盤」
唐時代（7～8世紀）



重要美術品 「三彩女子」
唐時代（8世紀）



重要美術品 「三彩獅子」
唐時代（8世紀）

● 緑のやきもの —緑釉—^{りょくゆう}

緑釉^{えんゆう}は鉛釉の一種で、中国では古く漢時代の明器^{めいき}にも用いられています。一時衰退するものの、唐三彩以降は、絶えることなく使われ続けました。



「緑釉獅子香炉」
明時代（17世紀）

● 細川護立と中国陶磁^{もりたつ}

永青文庫の設立者・細川護立は、幼い頃から漢籍に接し、中国文化に強い憧れを抱いていました。そして大正15年（1926）から約1年半ヨーロッパに滞在し、この頃注目を浴びていた陶磁器など、中国の古美術品を本格的に蒐集し始めます。

渡欧中には「三彩花卉文盤」^{さんさいかへんもんばん}（重要文化財）など唐三彩を購入。以降も護立は優品の入手を進め、中国陶磁コレクションを充実させていきました。



細川護立（1883～1970）

○ 白と黒のやきもの —^{じしゅうよう}磁州窯、^{こくゆう}白磁、^{くろゆう}黒釉—

磁州窯とは、中国の五代末期より華北地方に広く分布した窯場の総称で、この一帯で焼かれた白化粧を特徴とする陶器の呼び名でもあります。素地に白い土を掛けた白化粧地に鉄絵具で黒く文様を表すなど、手の込んだ装飾が加えられ、多様な展開をみせました。

白磁は、白い素地に透明釉をかけたやきもの。唐時代後期に完成し、宋時代の定窯（^{ていよう}河北省曲陽県）では象牙のような黄味がかった色の白磁が盛んに作られました。景德鎮窯（^{けいとくちんよう}江西省北東部・景德鎮市）においても技巧を凝らした白磁が次々と生み出され、元時代には白磁にコバルト顔料で絵付けをした青花磁器が発明されました。

黒色を呈する鉄釉の一種である黒釉はすでに漢時代より用いられ、宋時代には曜変天目をはじめ油滴天目、禾目天目など様々な黒釉茶碗が作られています。これらの茶碗は日本にもたらされ、室町時代には唐物茶碗として高く評価されました。



重要文化財 「白釉黒花牡丹文瓶」
磁州窯 北宋時代（11～12世紀）



「白磁長頸瓶」
定窯 北宋時代（11～12世紀）



「油滴天目」
金時代（12～13世紀）



重要美術品
「^{せいか}澱青釉紫紅斑盤」
鈞窯 金時代（12～13世紀）



● 青のやきもの —^{でんせいゆう}青磁、^{せいか}澱青釉、^{せいかな}青花—

青磁は、素地と釉薬に含まれる鉄分が還元焰焼成によって青く発色した磁器をいいます。漢時代には本格的な青磁が登場し、明時代まで中国陶磁の主流であり続けました。

不透明な青白色の澱青釉は、現在の河南省禹州市を中心に発達した鈞窯の特徴。金時代の頃には、澱青釉に紅斑が加えられ、独特な色調のものが作られました。

元時代には景德鎮窯において青花の技術が創始され、下絵付け技法として広く定着していきます。明・清時代を通して景德鎮窯で生産され、国外へも輸出。日本では「染付」と呼ばれて賞玩されました。



「青磁鉢」
龍泉窯 明時代（15世紀）

「^{せいかな}青花梅樹文観音尊」
景德鎮窯 清時代（17～18世紀）

● 多色のやきもの II —^{ごさい}五彩、^{とうかこう}桃花紅—

五彩は、透明釉をかけた磁器に赤、緑、黄、紫、青など様々な上絵具で文様を描く上絵付け技法のことをいいます。元時代の景德鎮窯にこの技法が伝わり、明時代には金色の文様を加えた金襴手など装飾性豊かなものが作られました。

さらに、清時代の景德鎮窯では技術開発が進み、ヨーロッパの七宝の技法を取り入れた粉彩と呼ばれる上絵付け技法や、桃のような複雑な色合いを表現する桃花紅（銅紅釉の一種）のやきものなどが生み出されました。



重要美術品
「^{ごさい}五彩金襴手牡丹孔雀文仙蓋瓶」
景德鎮窯 明時代（16世紀）



重要美術品
「^{とうかこう}琺瑯彩西洋人物図連瓶」
景德鎮窯
清時代 乾隆年間（1736～95）



重要美術品 「^{とうかこう}桃花紅合子」
景德鎮窯 清時代 康熙年間（1662～1722）

見どころ

◆6年振り！

重要文化財3点を含む中国陶磁の優品が一堂に。

2018年以来6年ぶりの開催となる中国陶磁展。本展では、永青文庫の中国陶磁コレクションより、重要文化財3点を全て展示するほか、漢時代から清時代までの優品を幅広く紹介します。

◆中国陶磁の色をテーマにした展覧会。

多彩な技法を紹介します。

中国陶磁には、唐三彩^{とうさんさい}、白磁^{せいし}、青磁^{せいし}、青花^{ごさい}、五彩など、様々な種類があります。今回は、色をテーマに中国陶磁を紐解く展覧会。多彩な技法を紹介しながら、その色彩美に迫ります。

◆中国陶磁に魅せられた

近代の画家・陶芸家の作品も展示。

洋画家・梅原龍三郎^{うめはらりゅうざぶろう}の「唐美人図」は、唐時代の「加彩女子」に惹かれて描いた作品。本展では、これら2点を同時に展示するほか、河井寛次郎^{かわいかんじろう}、宇野宗鶴^{うのそうやう}など、中国陶磁を研究した近代陶芸家の作品を紹介します。



「金瑱瑯蓋付馬上杯」
景德鎮窯 清時代（18～19世紀）



重要美術品
「加彩女子」
唐時代（7～8世紀）



梅原龍三郎「唐美人図」
昭和25年（1950）
【展示期間：1/13（土）～3/3（日）】

関連企画

◆記念講演会「永青文庫の〈いろいろ〉な中国陶磁—蒐集の歴史的な特徴と作品の魅力」

【講師】徳留大輔 氏（出光美術館 学芸課長）

【日時】2024年3月16日（土）13:30～15:00

【会場】日本女子大学 新泉山館2階 201・202教室（東京都文京区目白台1-19-10）

【定員】60人（先着順。定員に達し次第、受付を終了。）

【参加費】1000円（年間パスポート会員、大学・高校生500円）※税込。当日現金でお支払いください。

【申込方法】申込フォームまたは往復はがきにてお申込みください。※詳細は当館HPでお知らせします。

【受付開始】2024年1月13日（土）10時

◆永青文庫×ホテル椿山荘東京 訪日外国人向け宿泊特典をご用意

本展の入館チケットや「展示を楽しむ永青文庫オリジナル英語リーフレット」の付いたプランです。
詳細はホテル椿山荘東京のHPでお知らせします。

Partnership with Hotel Chinzanso Tokyo

Hotel Chinzanso Tokyo offers a special activity for international tourists that includes admission to Eisei Bunko Museum. Please visit the website of the hotel for further details.



【展覧会に関するお問い合わせ】

公益財団法人 永青文庫

〒112-0015 東京都文京区目白台1-1-1

E-mail: eisei-pr@eiseibunko.com

TEL: 03-3941-0850 FAX: 03-3943-0454

郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、お知らせください。

※掲載作品はすべて永青文庫蔵

令和5年度早春展「中国陶磁の色彩 —2000年のいろどり—」
広報画像申請書

2024年 1月13日(土)～ 4月14日(日)

貴社名:

媒体名:

ご担当者名:

ご所属:

TEL:

FAX:

ご住所: 〒

E-mail:

掲載予定日:

年

月

日

掲載概要: (コーナー名、画像の掲載サイズ など)

口読者プレゼント用チケット(5組10名様)ご希望の場合はチェックを付けてください。

※3月14日までにご紹介頂ける場合に限りさせていただきます。※チケットはゲラの確認後に送付いたします。

◆ご希望の写真番号に○を付けてください。



1. 重要文化財「三彩宝相華文三足盤」
唐時代(7～8世紀) 永青文庫蔵



2. 重要文化財「三彩花弁文盤」
唐時代(7～8世紀) 永青文庫蔵



3. 重要文化財「白釉黒花牡丹文瓶」
北宋時代(11～12世紀) 永青文庫蔵



4. 重要美術品「灰陶加彩馬」
北朝時代(6世紀) 永青文庫蔵



5. 重要美術品「磁瑯彩西洋人物図連瓶」
清時代 乾隆年間(1736～95) 永青文庫蔵



6. 「油滴天目」
金時代(12～13世紀) 永青文庫蔵



7. 「青花梅樹文観音尊」
清時代(17～18世紀) 永青文庫蔵

【広報画像ご使用に際してのお願い】

※画像の使用は、本展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。貸与した画像は、使用後速やかに消去願います。

※展覧会名、会期、会場、作品名称、展示期間、所蔵者を必ずご掲載ください。

※掲載誌は1部ご惠贈願います。

【個人情報の取扱いについて】

※ご記入いただきました個人情報は、当館からの展覧会情報のご案内にのみ使用いたします。

許可なく第三者に個人情報を開示することはございません。